

事業所名

幼児室ポッポ

支援プログラム

作成日

2025 年

3 月

25 日

法人（事業所）理念		<p>①障がいがある人に… 自分の持っている力を発揮しながら、普通の生活を営み、自らが社会に価値のあるものである事に気づき、自己実現していけるよう支援する。</p> <p>②障がいがある人の家族に… 障がいがある人への思いを受け止め、それを実現していく。</p> <p>③援助者には… 障がいがある人と共に歩みつつ、自己実現を図るために必要なサービスを提供し、常に向上的である人材に育てる。</p> <p>④地域の方に… 共に生きていく環境を実現するために、お互いにメリットのある関わりを築いていく。</p>					
支援方針		<p>①人と一緒にいることを楽しむ。</p> <p>②遊びをとおして自己を表現し、何でもやってみようという意欲を育てる。</p> <p>③大人との信頼関係を深め、ともだちと共感し集団の楽しさを知る。</p> <p>④散歩や運動をとおして体を動かす楽しさを知り、心身の発達を促す。</p> <p>⑤身の回りのことを自分でしようとする。</p> <p>⑥新しい時代を生きている保護者の子育て支援のあり方を共に考える。</p>					
営業時間		9 時	0 分から	16 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	<p>基本的な生活リズム（睡眠、食事、排泄）を家庭と連携して整えていく。</p> <p>職員と一緒にまずは身の回りのことをやってみようという気持ちを育てる。</p> <p>”できた” ”やれた” という体験を増やし、自信を持ってさらにやってみようと思う気持ちを育てる。</p>					
	運動・感覚	<p>全身を使う遊びー散歩、プール活動、運動遊び（三輪車、トランポリン、肋木、マット運動、なわとび、すべり台等大型遊具）</p> <p>指先を使う遊びープラレール、ブロック、お絵かき、粘土、工作等</p> <p>その他ー水あそび、泥あそび、シャボン玉</p>					
	認知・行動	<p>マークや写真等視覚からの情報を取り入れられるような環境を作る。</p> <p>”できた” ”わかった” という喜びを感じられるような遊びを取り入れる。（お買い物ごっこ、お絵かき、工作、シール貼り、粘土、色水、スタンプなど）</p>					
	言語 コミュニケーション	<p>担当職員と仲良くなり、その人に何かを伝えたいと思える気持ちを育てる。</p> <p>子どもが伝えたい気持ちを表情や仕草等で職員が代弁しながら付き合い、気持ちを分かってもらえる喜びをたくさん感じる。</p>					
	人間関係 社会性	<p>遊びを通して担当者と仲良くなり、人と一緒にあそぶ喜びを感じる。人への安心感を育て、大人から子ども同士の関わりを楽しめる場面へ繋がっていく。</p> <p>どんな感情でもどんな自分でも職員に受けとめられる経験をたくさんし、自分に自信をつけ、集団行動を楽しむ。</p> <p>年長児対象の小グループ支援。就学に向けて、自己肯定感を高め、同年齢児との仲間意識を育てます。（月1回音楽療法含む）</p>					
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ・月一回公認心理師による保護者への相談支援 ・年数回保護者のグループ相談支援（公認心理師同席） ・年2回（9月と3月）保護者と職員の面談 ・必要に応じ電話相談、面談 ・定期的に保護者会の開催 	移行支援		<ul style="list-style-type: none"> ・就学に向けての年長児グループ支援、保護者対象のグループ相談 ・移行先との情報共有（必要に応じて） ・職員と保護者の進路相談 ・法人内放課後等デイサービスとの連携 			
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の発達センター中心の児童発達支援連携会議の開催 ・市内子ども関連の事業所（保育園、市役所関係機関等）とケア担当者会議の定期的な開催 			職員の質の向上		<ul style="list-style-type: none"> ・法人職員研修（虐待防止対策、感染予防、BCP等） ・公認心理師による事業所内研修（年3回）、ケース会議（月一回） ・外部研修への積極的な参加 	
主な行事等	誕生会、小遠足、おもい掘り、運動会、ホットケーキづくり 親子遠足、クリスマス会、豆まき、お別れ・卒園遠足 等						